

令和2年度「教育委員会 年度始めの式」教育長訓示  
—自ら動く、学び続ける、地域に飛び出す—

R2. 4. 1

先ほど宮澤市長より辞令交付を受け、改めて教育長を拝命いたしました。安曇野市並びに安曇野市の教育の更なる充実・進展のために、一層の努力・精進を重ねてまいりたいと決意しております。ご臨席を賜っております教育委員の皆さま、また、新たに着任されました平林洋一教育部長をはじめとする職員の皆さん、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、3年前“たくましい安曇野の子ども”の育成を掲げ、様々な取り組みをしてまいりましたが、最近明らかになってきたことは、子どもたちを取り巻く環境や生活の著しい変化と、健康や体力などを脅かすその影響の深刻さです。そこで、本年度から、目指す「たくましい安曇野の子ども」の具体的な姿を「自ら動く児童生徒—自分の意思で主体性・自主性を持って行動できる真に自立した人間」とし、そのために、「学び続ける姿勢を持つ教師」、「地域へ飛び出し地域とともにつくる学校」の3つの重点を定めました。このことは、先に開催されました「総合教育会議」でも承認されました。

そして、新たなステッカーが昨日誕生しました。安曇野のシンボルである常念岳の頂上、すなわち「たくましい安曇野の子ども」の高みを目指して、「自ら動く、学び続ける、地域へ飛び出す」ことを市教育委員会が17小中学校とともに取り組んでいく決意を表しています。

また、この「自ら動く、学び続ける、地域へ飛び出す」の言葉は、私自身の指針としたいと思いますし、職員の皆さまにもご自身に当てはめてとらえていただきたいと思います。つまり、子どもたちや学校に負けないように、私たち自身も「自ら動く、学び続ける、地域へ飛び出す」ことを実践したいということです。

今や、新型コロナウイルス感染症の拡大が予断を許さない状況です。緊張感を緩めることなく危機管理にあたるとともに、諸課題に対して一丸となって取り組んでいきたいと思えます。

最後に、教育に携わる職員として求められるモラルや高い規範意識を常に持ち続けることをお願いし、年度始めの挨拶といたします。

(教育長 橋渡勝也)



「からだを動かし・頭で考え・心に感ずる」は、安曇野市に生まれた作家・文芸評論家・教育者 白井 吉見が、昭和 42 年に信州大学教育学部附属長野中学校開校 20 周年記念講演「中学生諸君に望む」と題する講演会の中で語った言葉